野草観察による砂川環境調査

福岡小学校　6年　馬場　萌絵実

1　動機

帰化植物を調べることで、環境調査ができることを知ったので、家の近くの砂川の自然はどうなっているか調べようと思った。

※帰化植物とは：「本来の生息地域からそのものが自生していない新しい地域に人為的に持ちこまれ、その地域の自然の中で世代交代をくり返し、定着した植物」

2　準備

野草図かん、地図、デジタルカメラ、分布図用のシール

3　方法

①砂川に生えている野草を全て写真にとる。

②図かんや、インターネットを使って、野草の名前と帰化植物であるかどうかを調べる。

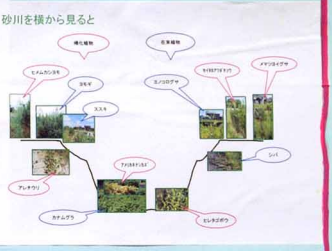
③総種類数と、帰化植物の種類数から帰化率（帰化植物のしめる割合）を調べる。＝帰化率が大きいと、昔の自然環境が失なわれていることになる。

$$※帰化率（\%）＝\frac{帰化植物種類数}{総種類数}\times 100$$

④地図の上に、植物が生えていた場所に合わせてシールをはり、全体の様子が分かるようにする。

4　結果

- 観察できた数…53種類（不明2種類）
- 帰化植物の数…20種類
- 帰化率……約38％



- 分布の様子
  - ①路上～斜面：セイタカアワダチソウ・ヨモギ・アレチウリ・ヒメムカシヨモギ・エノコログサ・メマツヨイグサ・シバ他
  - ②流水域：カナムグラ・ミズガヤツリ・アメリカネナシカズラ・ヒレタゴボウ・センナリホオズキ他
  - ③路上＋流水域：アメリカセンダングサ・ジュズダマ・アッ他

5　考察

分かったこと

・予想よりも多くの野草が生えていたが、帰化率が約4割もあり、外国産植物の勢力が強く、日本の植物が住みにくい環境である。

・野草の種類によっては、広い地域に広がって生える物や、せまい地域に集中して生えるものがある。

感想

日本の植物が減って、外国の植物が増えてきていることを知り、悲しいなと思った。これ以上、帰化植物が増えないでほしい。